

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



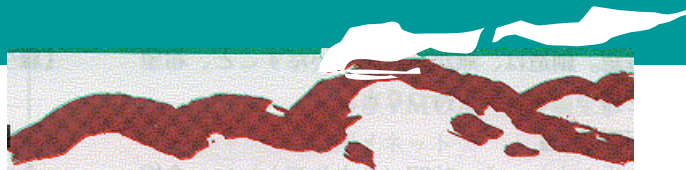
那須ワイズメンズク

2020~2021年度 No.251

11月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ



強調月間：ワイズ理解

ASF

ファミリーファスト

今月の聖句

彼らは泣きながら帰って来る。わたしは彼らを慰めながら導き、流れに沿って行かせる。彼らはまっすぐな道を行き、つまづくことはない。(後略)

旧) エレミヤ書31:9

・11月第1例会(日本文化「茶道」を学ぶ)

日時：11月23日(月・祝)午前10時~

場所：遠山宗定師匠宅

那須塩原市二区町369

内容：日本の文化を知ろう・お茶の会

| | |
|------------|-----------|
| 開会点鐘 | 司会：田村副会長 |
| 会長挨拶 | 会長 河野 順子 |
| ワイズソング斉唱 | 会長 河野 順子 |
| ワイズ信条の朗読 | 一同 |
| 聖書朗読・祈禱 | 一同 |
| ゲスト紹介 | 原田 明子メネット |
| 茶道についての講話 | 遠山宗定師匠 |
| 茶道体験 | 茶室にて |
| ワイズ・YMCA報告 | |
| YMCAの歌 | 一同 |
| 閉会挨拶・点鐘 | 会長 河野 順子 |

会費：500円

2020~2021年度 主題

国際会長：(IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」

アジア太平洋地域会長：(AP) David Lua(台湾)

「変化をもたらそう」

東日本区理事：(RD) 板村 哲也(東京武蔵野多摩)

「変化をたのしもう！」

北東部長：南澤 一右(仙台青葉城)

「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」

クラブ役員

| | |
|------|-------------|
| 会長 | ：河野 順子 |
| 副会長 | ：村田 榮・田村 修也 |
| 書記 | ：藤生 強 |
| 会計 | ：村田 榮・鈴木 保江 |
| 担当主事 | ：藤生 強 |
| ブリテン | ：田村 修也・村田 榮 |

10月例会データ(出席率：100%)

在籍者 6名(内 功労会員1名) 例会出席者 4名

メイクアップ 1名 ゲスト2名

11月 Happy Birthday

11/7 原田 明子メネット

11/14 河野 順子ウィメン

・11月第2例会(役員会)

日時：11月17日(金)午後1時30分から

場所：田村副会長宅

・11月第1(日本文化「茶道」を学ぶ)例会

日時：11月23日(月・祝)午前10時~

場所：遠山師匠宅

・12月第2例会(役員会)

日時：12月1日午後1時30分~

場所：田村副会長宅

巻 頭 言

藤生 強

「新型コロナウイルスは夏になれば収まるのではないか・・・」と、インフルエンザの様な季節に左右される病気であるとのコメントを春先にテレビで聞いた覚えがあります。実際には、緊急事態宣言解除後の経済活動再開やGOTOキャンペーンによる経済活動活発化などの要因によって『第2波』が発生しました。そしてこれらに加えて寒さによる換気の不完全さ等が要因とされる『第3波』が始まり、感染者数は第1波、第2波とは比べものにならない多さが予想されています。

ブリテン4月号巻頭言にて私の勤務するYMCA特養マイホームきよはらの状況を報告しましたが、半年たった現在、幸いにして感染者は発生していませんが、訪問者の対応や納品の受け渡しなどは引き続き玄関で行い不要な入館は避けています。とは言え、消防設備法定点検やエレベータ保守点検、故障箇所の修理などはどうしても入館しての作業となりますが、相手方も充分理解し慣れているようで会社として検温や健康チェックを行っているとのこと。良くも悪くも『コロナと共に～with コロナ～』という訳です。

それでも11月初めにすぐ近くの大型スーパーマーケットにて従業員2名の感染者が発生しました。同じ生活圏の中のため入居者家族や利用者本人、そして多くのYMCA職員もそのスーパーマーケットを利用しています。特養内にウィルスがいつ侵入してもおかしくない事態となっています。何とか食い止めなければと、苦慮している次第です。

神様は必要であると考えて、私たちにこの試練（課題）を与えているはずです。私たちが日本がそして世界が一丸となってこの試練を乗り越え、光り輝く“時、”が少しでも早く訪れます様、祈るばかりです。



10月第1例会(アジア学院収穫感謝の日)

日時：10月10日(土)

午前8時15分田村宅に集合

場所：アジア学院

参加者：河野会長、村田副会長、藤生担当主事、鈴木メン、田村メネット。

ゲスト：平山とちぎYMCA主事、室橋岳人ユースリーダー(むろさん)

10月例会は、恒例の「アジア学院収穫感謝の日」へのブース参加でした。「アジア学院」は那須ワイズ活動エリアの中央部に位置し、那須ワイズそしてとちぎYMCAも昔から色々関わらせて頂いています。



今年は新型コロナウイルス感染予防のため、①10日(土)の1日のみ、②ブース参加団体も厳選しそして1団体3名以内に、

③来場者(お客様)は完全予約制で午前100名午後100名、など制約を設けての開催となりました。これだけでも収穫祭参加者数は例年と比べて大幅に減少することが予想されますが、加えて台風14号がこの日に関東地方に接近し大雨となったため、それによる来場キャンセルもあったようで、ダブルでの参加数減少となりました。



ワイズブースは、「古着ミニバザー」、ハロウィンの飾りに最適な「おもちゃカボチャ」と「リンゴ(秋映)」の販売を行いました。来場者が少ない中、古着はそれなりに売れていました。

おもちゃカボチャはお気に入りの柄を選びながら購入されていました。リンゴは3つのコンテナが完売しました。

YMCAブースは子ども向け「スライム作り」と毎年好評「スーパーボールくじ」を行いました。10名程の子どもたちが遊びに来て、スライムをボランティアリーダーに教わりながら楽しそうに作っていました。

収穫祭全体の参加者数は少なかったですが、それでも参加者は思い思いに楽しんでいる様子が伺えま

した。このような状況の中で来場される方々はアジア学院の収穫祭を本当に楽しみにしており、そしてアジア学院を支えたいと願っている方々だと感じました。それだけ魅力のあるアジア学院をワイズとして微力ながら支えていることに誇りを感じました。来年は多くの参加者で溢れることを祈ります。

11月第2例会(役員会)報告

日時：11月17日(火)午後1時30分～

場所：田村ワイズ宅

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、田村メネット

協議に入る前に、那須ワイズの今後の活動のこと、とちぎYMCAのコロナウィルス禍の中で、塩屋キャンプ場と那須YMCAをどういう方向性に導こうとしているのかが解らなくなり、不信感を抱くようになったこと等の話がでた。那須ワイズとしては、次の世代の人たちに活動が引き継がれていくことを願いつつ、今あることを進めていくことにした。

協議事項

1. 10月例会を振り返って

・第1例会(アジア学院収穫感謝の日のバザー)は、コロナと雨の影響で今までは違った収穫感謝の日の活動であった。参加することに意義があったようだ。

・特別例会(2020アカマツの森づくり)は、塩那森林管理署とオオタカの会の主催の植樹に参加。新型コロナウイルス対策をとっての植樹であった。どの団体も高齢化で参加者が減少している。

2. 11月例会の開催の件

11月23日(月・祝)午前10時より、遠山宗定師匠宅(那須塩原市二区町369)にて開催する。ユースリーダーの参加は難しいようであるが、ゲスト2名を迎えて7名の参加で実施する。会費500円。遠山師匠には、謝礼5,000円をお支払いする。

3. 12月例会について

12月12日(土)に西那須野教会をお借りして、クリスマス例会(キャンドルサービス)を行う。奨励は、潘牧師、奏楽は、木村真紀子さんに依頼。(謝礼は各3,000円)開催時間については、ユースリーダーの参加等を考慮して、平山主事と相談の上11月23日に決定する。新型コロナウイルスの影響を考慮して、養徳園の子供たちの招待は行わない。祝会は、ショートケーキと紅茶のみでティーパーティーを行う。その後、アジア学院の働きについてのお話を聞く会とする。キャンドルサービスの献金は、

アジア学院に捧げる。案内チラシは、田村副会長が作成。養徳園には、20,000円の献金をする。

4. 12月第2例会（役員会）について

12月1日（火）午後1時30分～田村副会長宅にて開催。尚、今後の第2例会（役員会）は、第1火曜日の午後1時30分より開催することを決定した。

5. 1月新年例会について

新型コロナウイルスの影響を考慮して、西那須野教会をお借りして行う。日時については、11月23日に決定する。

6. その他

那須聖園老人ホームへの協力するタオル等の贈呈に関する、チラシ作成を田村副会長に依頼。

10月特別例会（植樹）報告

会長 河野 順子

10月30日9時30分受付、例年通り、那須街道の赤松林で植樹が行われました。

今年の春の植樹は、コロナウィルスにより中止となりました。久々のボランティア活動でしたが、晴天に恵まれ、よい汗をかきました。

塩那森林管理署としても、今年初の一般市民による植樹のようで、念には念を入れて、戸外であるにもかかわらず、一人ひとりマスク着用、受付記名、ソーシャルデスタンスで開始されました。

参加団体は、NPOオオタカ保護基金、シルバー大学校北校OB、ワイズメンズクラブ那須クラブ、そこに塩那森林管理署の男女十数名で、総数20数名でありました。毎年、ご一緒していたガールスカウトのこども達には、誘うことをしませんでした。署長のあいさつのなかで、3万余本の赤松が今は、8千本に減ったことの報告がありました。

オオタカ保護基金代表の遠藤さんからは、オオタカの生息する条件や、今、この松林にはツガイのいることが確認できていることの報告がありました。

作業のはじめは、地搔き、これは既に木の葉さらいされているところを、さらに金属の熊手で地面が見えるまで搔きます。実生の芽が出るためには、地



面がむき出しでないとダメだそうで、確かに結構実生のかわいい松が生えていました。この作業はたいへん重労働でした。

多くが高齢者だったこともあって、皆さん、この作業が一番きついと言っておられました。

次に、植え方について説明され、ポットで育てられた10～15センチくらいに育った松を植えていきました。100本程度の植樹は1時間程度で与えられた区域に植樹ができました。



どの団体も、年々出席できるメンバーが欠けていることを聞き、何とか若い人達に繋いでいきたいと痛切に感じた次第でした。

ワイズメンズクラブでも、リーダーの参加ができる日時を工夫したいと思いました。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第91回）

田村修也

10年8月より那須原二官林ヲ設置スル見込ヲ以勸業課員西山眞太郎ヘ丈作附添東西両原区畫割ヲナス都而近隣村落人民ヲ説テ刈拂人夫ヲ出サシメ秋ヨリ冬に至而成功シ始60余ヲ費シタリ。

11年8月6日ヨリ雇入渋沢弥作他式人曳ヘテ那須郡岩崎村ニ至リテ水路揚口ヲ定メ夫より測量着手ス。高低ヲ調水路ノ間數ヲ調査ス同年9月15日測量本着手ニ取掛岩崎村ヨリ東原横林同所ニテ蛇皮川に埋樋設ル仕向ニテ同所ヨリ赤田山ヨリ石上村ニ至テ箒川を横断山田村ヨリ土屋村ニ至リ針生村ノ山ヲ切割矢板に至テ矢板川ニ入ル 夫ヨエイ川崎村ヨリ岡村ニ至リ押畑村ニテ荒川ヲ矢板印南横断シ氏家上ノ原ニ出テ草川ニ達ス

里程 合11里16丁51間5尺

高低 111丈4尺

水門 52ヶ所 橋梁 61ヶ所

隧道 貳ヶ所也

1月28日ヲ以氏家ニ終ル矢板印南始終出張シテ悉調ス 12月2日右調査所佐久山ニ設ケ筆生ヲ雇入翌12年4月ニ至テ調製全終る 其費額16万3700余円也調書縣用圖面三枚ヲ縣廳ヘ奉呈ス縣令公の御添申ヲ以政府ニ上願成ル

12年ヨリ那須原計畫下組成頓シ拝借地出願手續ヲナス那須官設牧場設置ナル勸業委員ノ故ヲ以其事

ニ関ス

1 2月8日保晃會組織良成頓シ官許為得安生矢板野澤印南出京数日ニ及其中伊藤内閣卿閣下 松方大蔵大輔兼勸農局長安積疏水工事御巡覽アル事ヲ新聞ニ認メ内務省ニ出頭シテ那須水路出願の事ヲ上陳シ今般御序ヲ以那須原御巡覽ノ事ヲ請願ス 直ニ御聞届アルニ付其翌日出發栃木へ出テ本縣へ其事ヲ上申シ勸業局長白石四等属一同原野白川ニ至テ道路見分シ道路修繕ノ事ヲ各所村々へ申渡ス其9月中 御両公那須湯元宿ニ而当原一覽被成下

1 3年8月15日原野拝借ノ御指令ヲ被下付依之一同大田原二會シ社則ヲ編製下野各所に有志株主ヲ集ムル事ヲ尽ス 同年9月那須一本木ニ仮小屋ヲ出来シ丈作等引移ル 同年11月品川農商務省少輔殿ノ巡回アリ 同年11月農家家作悉皆成ルヲ以馬耕器ヲ拝借シ又購入シ馬耕ニ着手シ追々農事ヲ務メ又植樹ヲ殖シ住人ヲ移ス事ヲ専務トス 同年三嶋通庸公東肇耕社設置ス於茲増々水ノ乏シキニ苦シミ同公ト申合福島縣土木掛中村章重氏ニ依頼シ社員ヲ派出シ工事ヲ縮小ニシ費額ヲ減シ14年4月再水路ノ事ヲ上願 今度ハ赤田山迄ノ見込其餘ハ除ニ稻堀ヲ以通水ノ見込也 右費貳千七百七円ヲ以テ通水ナルノ見込ナリ

明治14年1月10日水路工事御聞届該金額縣廳へ御下渡被成 依而是永江原ノ両氏ヲ派出シテ水路着手ス右水路十年概測ヲナシタル水線ニ據ル「翌11月15日藤川縣令通水式ノ典ヲ那須開墾社ニ舉行セラル然ニ右之金額出願ト(5字抹消)在テハ」人足賃金米塩代等良1倍ニ騰貴シタル故貳万貳千余円餘ニ而人費額ニモ不足ナルカ故猶金參万四千八百一円余増額ヲ上願ス 本年東北御巡幸輿ヲ下野為御先發松方内務卿閣下七月中当原江御臨有之同公ノ当原ニ御臨場是ニ而再度ニ及 8月5日 鳳駕佐久山驛御行在成ル翌6日有栖宮ニ品親王殿下当原御臨 是ハ縣令ノ上願ニ依テ也 此時丈作始メ社員一同御書扨酒肴料ヲ下賜ス 印南文作外7人 此方共古来荒蕪地ニ就キ同志協截開墾ニ従事候段奇特ノ至尚此末勉勵可致依為別紙目錄ノ通下賜候事 14年8月6日 右大臣熾仁親王 此時親王家於烏森御休憩之際御手ツカラ小松樹被相植 宮ノ松ト称ス。

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
園長・理事長 福本 光男

先月のプリテンに書いた玉入れの続き話です。「私自身は、行為としては同じかもしれませんが、一瞬考えてからしかできないと思うからです」と記しました。私にこのことを気づかせてくれたのは、大学時代、神戸在住で後にキリスト教会の牧師となったKさんとの出会いでした。

Kさんは、脳性麻痺による重度のしょうがいがあり、生活全般の介助が必要でした。しかししょうがいのある方の施設から、アパートを借りる地域での自立生活(independent living)、脱施設化(deinstitutionalization)を模索されながら、仏教大学通信制に在籍されていました。京都でのスクーリング中、当時私が通っていた京都葵教会を宿舎にしていました。その間、学生である私たちが交代で、寝泊まりし、食事、入浴、排泄の介助、大学への往復を行いました。ごくごく普通に楽しく介助していました。

あるとき、私はKさんの東京、高崎行きの人介助を頼まれました。私は東京に行くKさんの手足になろうと喜んで引き受けました。東京に着くと40年も前の事なので山手線の階段は行き交う人に声をかけて手伝って貰っての移動、トイレ探しも一仕事で見つからない場合は物陰で尿瓶にしてもらいました。ユニットバスは、1人介助は難しいですので、銭湯を探して、体を洗い抱きかかえて入浴、食事は2人で2時間という具合です。初日は、初めての経験でとても楽しかったです。ただ3日目の夜、若いとはいえ慣れないことを続けたこともあり、疲労もピークに達していたと思いますが、夕食時に、心のなかで「してあげている」という気持ちが頭をもたげて来て驚きました。当たり前の行為として付き合ってきたつもりでしたが、非日常の経験を通して、実は同情を越えられませんでした。言い換えますと、Kさんから私は、体験智として究極的に自身の同情という差別を越えられないことを教えていただきました。

その経験が今の仕事に繋がっています。私は、その溝を埋めるべき努力の大切さを認めつつも、次代の子どもたちに託しました。現在、幼稚園では47名のしょうがいのある子どもたちが可能な限り共に園生活を送っています。私には出来ない事を普通にやっている子どもたちから、共に育ち合うことが大事だと体験的に気づかせていただく幸せを感じてい

ます。

(「しらゆり」2020. 10. 2 加筆修正)



西那須野幼稚園に可愛く飾られたおもちゃカボチャ

アジア学院たより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

時代の転換点

時代の転換点に私たちは生きています。今私たちが共になすべきこと、それは日々の生活において、ただただ、いのちと食べものをいとおしみ、自然が奏でるリズムを体感しながら、私たち自身を変え、定められた未来をより良いものに変えていくことです。

「新型コロナは冬までにはきっと収まっているだろう。」4月に緊急事態宣言が出された頃、このような予想を持っていた方は私だけではなかったと思います。しかしこの予想はみごとに裏切られ、新型コロナは相変わらず世界中の人間の活動を広範囲に制限しています。先のアメリカの大統領選挙でも、新型コロナをめぐる問題は常に争点の中心にありました。上記の言葉はアジア学院の創設者高見敏弘が1996年に書いたものですが、今はきっとその時以上の「時代の転換点」に私たちはいるのではないのでしょうか。

「時代の転換点」で思い出したのが、水俣を描き続けた作家の石牟礼道子さんの言葉です。石牟礼さんは東日本大震災と福島第一原発事故の後、「息ができなくなっていた大地が深呼吸をして、はあっと吐き出したのでは。死なせてはいけない無辜(むこ)

の民を殺して。文明の大転換期に入ったという気がします。」と話していたとある記事で読みました。またある新聞のコラムでは、記者が東日本大震災後に出版された石牟礼さんの本の最後に書かれた次の文章を紹介して、新型コロナに世界が翻弄される今、石牟礼さんが生きておられたらどんなことをおっしゃるだろうと問いかけていました。

「今後、文明は明らかにこれまでと異質なものになっていくと思う。一国の文明の解体と創世が同時に来るような。それがいまという時ではなかろうか。」

「一国の文明の解体と創世が同時に来るような」「時代の転換点」にある今、それでも季節はめぐり、秋空は高く澄みわたり、鮮やかな紅葉は目にまぶしいほどです。新型ウィルスといえば、人間に戦争をしかけているわけでもないのに、人類の「宿敵」呼ばわりされ、一方でそんな人間界の騒ぎにはほとんど無頓着の様子で、人間が慌てれば慌てるほど人間の無力さをあざ笑っているようにも思えます。そんな中で、初めに紹介した高見の「今私たちが共になすべきこと、それは日々の生活において、ただただ、いのちと食べものをいとおしみ、自然が奏でるリズムを体感しながら、私たち自身を変え、定められた未来をより良いものに変えていくことです。」という言葉が心と体にしみてきます。

人間はもともと自然が奏でるリズムを敏感に感じて生きる生き物でありましたが、そのリズムはいつのまにかはるか遠くに聞こえるばかりになってしまいました。人間の作り出すリズムと自然の奏でるリズムが大きくずれて不協和音を発する時、今回のような事態が起こってくるのだと思います。自然のリズムは太古の昔から変わらず流れているのですから、聞くに堪えない不協和音を生じさせるのはきっと人間のリズムの方に違いありません。

自然のリズムを体感することを高見は別の文章で、「自然全体との共振」とも言っています。それは「自然のおおらかで厳しい、また秩序正しく美しい営みから、自分自身のあり方を学ぶようになること」であり、その姿勢でウィルスを見ると、このウィルスは狡猾でもしたたかでもなく、それどころか「意志」すらなく、単に人間の体の細胞に入って増殖するだけのもので、「細胞も持たないし代謝も行わないので、生きていてもいえない」という科学者もいます。はっきりしていることは、こういったウィルスは自然の中にまだいくらでも存在し、人間はそういったウィルスを含んだ自然のごくごく一部に過ぎないということです。自然界の最強、最高位に君臨し

ているかのような錯覚に陥っているけれど、実に弱く、もろく、今回のようにウィルスに突然体に入り込まれたら、ひとたまりもないくらいのちっぽけな存在なんだということです。

先ほど紹介した石牟礼道子さんの本の最後にある文章は、以下のように続きます。

「そうだとすると、他者を思いやる心を抱きながら、心の手を取り合って亡びたいと思う。都市文明ではない何か。この頃、念頭に来るのは、とある像である。草の露で深々と浄められたような野原である。幽かな道も見える。」

「時代の転換点」に立つ私たちの前にはどんな道があるのでしょうか。都市文明で表されなかった何かとはいったい何で、幽かな道はどこにつながっていくのでしょうか。「定められた未来をより良いものに変えていく」ことが出来るのか、謙虚に祈って参りたいと思います。

YMCAだより

【那須YMCAのリーダートレーニングを行いました！】

10月18日(日)に同月25日(日)に行われる活動のため、野外炊飯のリーダートレーニングを活動場所である冒険活動センターで行いました。

当日はOG・OB、現役を含め20名のリーダーが集まりました。OG・OBがグループリーダーを担い、現役のリーダーはメンバーになり野外炊飯を体験していきました。

今年はコロナのこともあり、手指消毒や調理器具の取り扱いなど子どもたちと行う時を想定しながら行っていました。薪割り・火付け・カレー作りの基礎を学び自分たちで考えながらトレーニングに取り組んでいました。トレーニングの先にある、子どもたちとの活動に向けてよい助走となりました。



【全国リーダー研修会の感想】

五十嵐啓介（ベコリーダー）

全国リーダー研修会に参加して、アクションを起こす大切さを改めて感じる事が出来ました。毎週行っているリーダー会もただ内容を決めるだけではなく、参加する人達を喜ばせるにどうしたら良いか、何が必要かなど、より良いプログラムにするために内容を決め、成功させるまでがリーダー会なのだとな全国リーダー研修会に参加して気づくことが出来ました。今年はオンラインというツールではありましたが、全国のリーダー達と交流し、意見を出し合うことで、新たな視点や考えを身につけることが出来ました。全国のリーダー達と交流する機会は中々ない機会なので、貴重な経験をする事が出来ました。ありがとうございました！



い機会なので、貴重な経験をする事が出来ました。ありがとうございました！

【とちぎYMCAウィンタープログラムが始まります！】

11月4日(火)より、冬休みプログラムの募集受付が始まります。スキーキャンプやデイキャンプなど楽しい企画が盛りだくさんです。是非、沢山の方にお誘い頂き、ご参加お待ちしております！

WEB受付：11/4(火)～

【とちぎYMCA・那須YMCAの11月の予定】

- ・11/4(水) さくらんぼお楽しみ抽選会オンライン
- ・11/15(日) Yキッズ(キャンドル作り)
- ・11/21(土) サタデークラブ(箱の森プレイパーク・サイクリング)
- ・11/28(土) サタデークラブ(西那須野幼稚園・クラフト)